

[成果情報名]宿根バーベナとクローバーにおける土着天敵ヒメハナカメムシ類の発生状況
[要約] 宿根バーベナとクローバーにおけるヒメハナカメムシ類の発生は5月から認められ、6月中旬から7月上旬に最も多くなる。ナミヒメハナカメムシ、タイリクヒメハナカメムシの発生が認められ、ナミヒメハナカメムシが優占種である。

[キーワード] 宿根バーベナ、クローバー、ヒメハナカメムシ類、発生状況

[担当機関名] 農業試験場 環境部 [連絡先] 0736-64-2300

[部会名] 野菜・花き（野菜作物） [分類] 研究

[背景・ねらい]

宿根バーベナとクローバーには、野菜の重要害虫アザミウマ類の天敵ヒメハナカメムシ類が多く集まる。この天敵を利用したアザミウマ類の防除技術を確立するため、ヒメハナカメムシ類の発生時期、発生量および発生種を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 紀の川市の宿根バーベナとクローバーでは、ヒメハナカメムシ類の発生は5月から認められ、6月中旬から7月上旬に最も多くなり、9月に減少し、10月に終息する（図1）。有田川町の宿根バーベナでのヒメハナカメムシ類の発生は、紀の川市と同様の傾向が認められる（データ省略）。
2. ヒメハナカメムシ類成虫の発生ピーク時の1㎡あたり生息数は、宿根バーベナでは100頭以上、クローバーでは50～100頭程度である（データ省略）。
3. ナミヒメハナカメムシ、タイリクヒメハナカメムシの発生が認められ、ナミヒメハナカメムシが優占種である（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 宿根バーベナなどの地被植物からヒメハナカメムシ類を効率的に採集する装置（天敵採集装置）をみのもる産業株式会社と共同で開発中である。また、採集した天敵をシシトウガラシに放飼するアザミウマ類防除技術を検討中である。

[具体的データ]

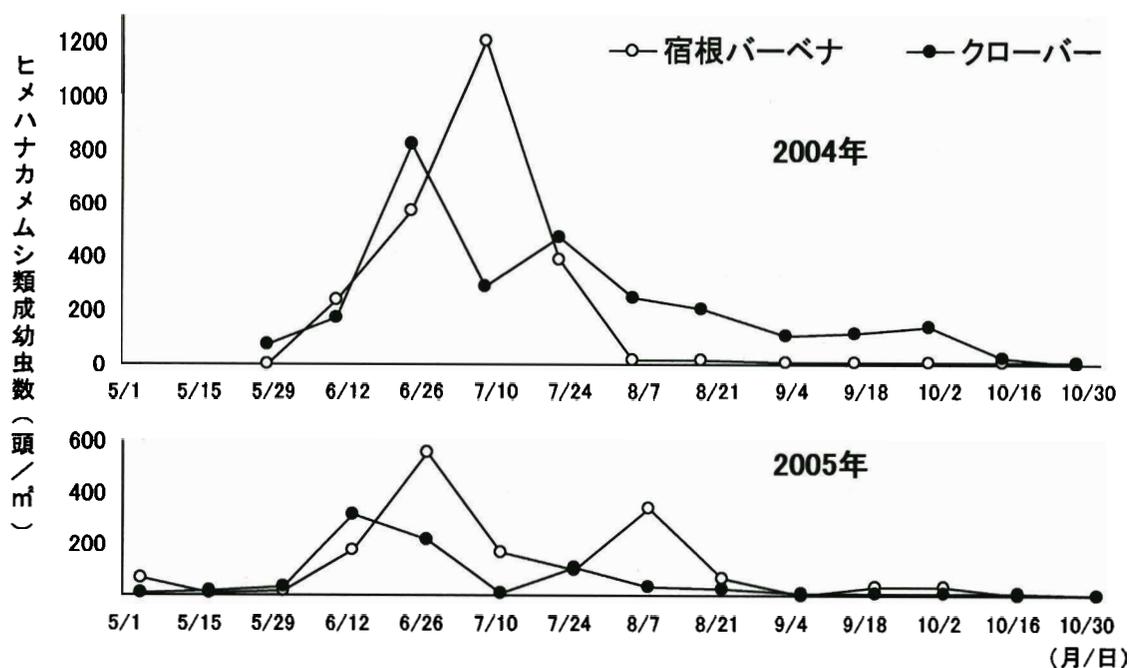


図1 宿根バーベナとクローバーにおけるヒメハナカメムシ類の発生消長

※ 調査方法: 20cm×20cm枠内の花を3カ所採取してエタノール洗浄し、ヒメハナカメムシ類成幼虫数を計数した。
 ※ 宿根バーベナ「タピアン・バイオレット」 紀の川市(農業試験場内)
 定植: 2004年4月22日及び5月12日、面積: 72㎡、栽植距離: 畝幅2m、株間40cm、4条植、条間40cm、千鳥植、抑草用マルチとしてワイドスクリーン#1013(日本ワイドクロス(株)製)を全面被覆した。
 ※ クローバー 紀の川市(農業試験場内)
 2004年6月下旬から7月上旬に農業試験場内の自生クローバーを移植、面積37㎡。2004年7月上旬まで別の自生クローバーで調査し、7月下旬以降は移植したクローバーで調査した。

表1 宿根バーベナとクローバーにおけるヒメハナカメムシ類種構成

草種	調査年度	種構成(%)	
		ナミヒメハナカメムシ	タイリクヒメハナカメムシ
宿根バーベナ	2004	96.3	3.7
	2005	100	0
クローバー	2004	61.1	38.9
	2005	83.3	16.7

[その他]

研究課題名: 遊休地を活用したヒメハナカメムシ類の増殖と有効利用

予算区分: 農林水産研究高度化事業

研究期間: 平成16~18年

研究担当者: 福嶋総子、井口雅裕

発表論文等: なし